

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

【2017年2月11日～2017年2月17日の推移】

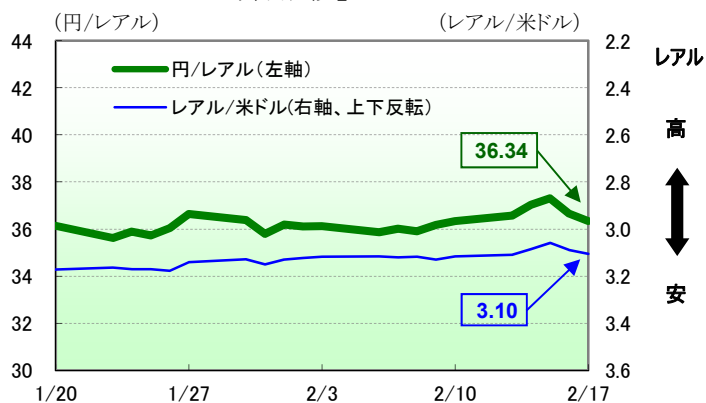
【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは対米ドル、対円ともに小幅に上昇しました。債券は週半ばに上昇したものの切り返し、ほぼ変わらずの変化となりました。

引き続き、鉄鉱石価格の上昇と世界的な株高がブラジル・レアルを支えています。次回Copom(金融政策委員会)(現地2月22日)での利下げ観測が強まっていますが、債券市場では既に織り込みを終え、金利の動きは限定的となりました。

海外では、FOMC(米国連邦公開市場委員会)でのイエレン議長の議会証言により、米国の3月利上げの可能性が生じたため、一時ブラジル金融資産が売られる動きがありましたが、米国株式市場が値を戻すにつれ、ブラジル市場も追随し、値を戻しました。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年1月20日～2017年2月17日)



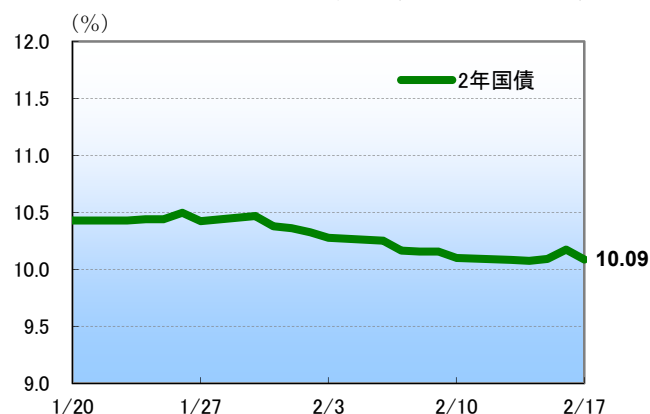
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週はCopomが開催される予定です。市場では0.75%ポイントの利下げが予想されています。国内の経済指標は依然として弱含んでいるため、予想以上の利下げ幅や声明文次第では、金融緩和期待を強める可能性があります。

注目点となる財政再建の行方に関して、テメル政権は今月末のカーニバル明けから本格化する国会で、社会保障改革法案審議とその成立を目指し、用意周到な準備を進めている模様です。公的年金支給年齢の引き上げや社会保障改革などの緊縮策には各方面から反発も予想されますが、政権が財政健全化を着々と進め、海外投資家の信認改善が続いた場合には、ブラジルへの投資活発化を通じてレアルが下支えされることが期待されます。

【ブラジル 金利推移】(2017年1月20日～2017年2月17日)



【3】主要経済指標

発表日	発表頻度	期間	指標名	データ	(参考)前回
2/14	毎月	2016年12月	小売売上高(前年同月比)	-4.9%	-3.8%
2/16	毎月	2016年12月	経済活動指数(前年同月比)	-1.82%	-2.21%
2/17	毎月	2017年1月	経常収支(百万米ドル)	-5,085	-5,881
2/22	毎月	2017年2月	インフレ率(15日締め、前年同月比)	--	5.94%
2/22	毎月	--	SELICレート	--	13.00%
2/24	毎月	2017年1月	純債務対GDP比	--	45.9%

(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
 - 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
 - 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
 - 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>